

第2章 地域の子育ての支援

施策201 多様な保育ニーズへの対応（プラン51頁）

施策目標 保護者の様々な就労時間や就労形態に対応できる特別保育サービスの充実を図るとともに、保護者や家庭の諸事情に対しても、柔軟に対応できる体制を整えます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「保育所や幼稚園に、希望したときに入れないことに悩んでいる、不安に思っている親」の割合	10.3%	13.2%	10%以下	B

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	8%	92%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 各取組・事業について、周知徹底をお願いする。
- 希望する保育所ではなく、入れる保育所に入所しているケースもあることから、保護者のニーズにあった保育所に入所できるよう配慮されているかどうかも見極めていただきたい。
- 病児・病後児保育を実施している保育所が、まだまだ不足している。各地域ごとに実施されているのが理想的であるが、拡充に向けた検討が必要である。
- 中間値が基準値より高いことをとって、多様な保育ニーズへの対応をさらに充実させていく必要がある。また、一時預かり事業については、市外からの需要に柔軟な対応ができないものか。
- 目標値を達成するには、認可保育所の数量拡大による次の施策が有効と考える。
 - ・幼稚園の活用
 - ・施設選択に関する相談についてのしくみづくり（相談員の選任など）
 - ・ワーク・ライフ・バランスの推進
 - ・認定こども園の拡充
- 特別保育事業を大半の施設で実施している点は高く評価したい。今後も多様な保育ニーズに対応すべく、各種サービスの充実を図っていただきたい。

■課題と今後の対応方針

保育ニーズの多様化に対応するため、特別保育事業については、目標値を上回る施設で実施している。引き続き、各取組・事業の実施を継続するとともに、周知を図っていく。また、子ども・子育て関連3法の施行を控えており、詳細な制度設計等、その動向を注視していく。

■22～23年度の取組・事業

- 延長保育事業
- 私立保育所一時預かり事業
- 休日保育事業
- 児童夜間養護等事業（トワイライト事業）
- 児童短期入所生活援助事業（ショートステイ事業）
- 病児・病後児保育事業
- 公立保育所一時預かり・特定保育事業
- 認定保育施設助成事業

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 延長保育事業
- 私立保育所一時預かり事業
- 休日保育事業
- 児童夜間養護等事業（トワイライト事業）
- 児童短期入所生活援助事業（ショートステイ事業）
- 病児・病後児保育事業
- 公立保育所一時預かり・特定保育事業
- 認定保育施設助成事業

第2章 地域の子育ての支援

施策202 保育環境の整備（プラン56頁）

施策目標 児童の健全な発育に資するとともに、保護者が満足し、安心できる良好な保育環境をつくります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
現在利用している保育サービスに対する満足度	60.6%	84.6%	90%	A

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	85%	15%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 子ども・子育て関連3法を見据えての対応をお願いします。
- 目標達成に向け、順調に推移しているようであり、引き続き、保護者が満足し、安心できる良好な保育環境をつくっていただきたい。
- 公立保育所の民間移行については、公立がすべてなくなっても支障がないものか心配な面もある。

2 課題と今後の対応方針

待機児童解消策として積極的に施設整備を行った結果、23年度において事業目標値を上回る整備数となった。また、すこやか子育て支援事業についても、24年度から、本市単独事業として預かり保育利用料をすこやか子育て支援事業費補助金の対象としている。引き続き、保護者が安心して子どもを預けられる体制の整備に努めていく。

なお、子ども・子育て関連3法の施行を控えており、詳細な制度設計等、その動向を注視していく。

■22～23年度の取組・事業

- 児童福祉施設整備事業
- 公立保育所の民間移行
- へき地保育所の運営の安定化
- 幼保連携施設の整備促進
- すこやか子育て支援事業
- 保育所AED整備事業（23年度のみ）

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 児童福祉施設整備事業
- 公立保育所の民間移行
- へき地保育所の運営の安定化
- すこやか子育て支援事業
- 認定保育施設等AED整備事業（24年度のみ）

第2章 地域の子育ての支援

施策203 幼児教育の充実（プラン58頁）

施策目標 幼児一人ひとりの望ましい発達を促し、豊かな感性と生涯にわたる人間形成の基礎を育むことができるよう、幼児教育の充実と幼稚園教育の振興を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「子どもの教育に関することで悩んでいた、不安に思っている保護者」の割合	22.5%	24.4%	基準値より減少	B

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 幼児教育の充実のため、次のことを含めた具体的な施策の早急な立案・実行が必要である。
 - ・認定こども園の拡充
 - ・幼児教育の指導主事選任 など
- 幼児期の多方面からの教育の充実、強化を図ることが、子どもの成長過程で大きな役割を果たすことに期待したい。

■課題と今後の対応方針

引き続き、保護者の経済的負担を軽減しながら、子どもの教育に関する悩みや不安に対応するとともに、幼児教育充実のため、関係機関との連携を強化していく。

■22～23年度の実施・事業

- 幼稚園就園奨励事業
- 私立幼稚園等に対する補助
- 私立学校等施設整備費補助金
- 保育所における教育の充実
- 幼保小研修会の充実および幼児と児童の交流活動の推進

■24～26年度の実施・事業(予定)

- 幼稚園就園奨励事業
- 私立幼稚園等に対する補助
- 保育所における教育の充実
- 幼保小研修会の充実および幼児と児童の交流活動の推進

第2章 地域の子育ての支援

施策204 子育て支援サービスの充実（プラン61頁）

施策目標 地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感や負担感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
地域子育て支援拠点事業数	1	5	(新) 6	A
			(旧) 3	

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	85%	15%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

○行政だけでは限界があり、既存の民間施設を活用するなど拡充を図っていただきたい。
 ○若い母親が家に閉じこもることなく、地域に出て他の親子とかかわっていくことの必要性を感じる。
 交流の場の情報を伝える工夫をお願いしたい。
 ○数自体は増えているが、保護者の声が反映されているのか不明である。
 ○理想的といえる、地域に根ざした子育て支援の拠点が確立できるよう、行政との連携を図る等支援の強化を願いたい。

■課題と今後の対応方針

引き続き、子育て家庭が安心して子育てできるよう、各地域に親子が気軽に集まり過ごせる交流の場を提供するとともに、多様化しているニーズに対応していくため、身近な地域の支援者と専門性を持った行政機関が連携を図り、一体となった支援体制の強化に努める。

■22～23年度の取組・事業

- 在宅子育てサポート事業
- 保育所在宅子育て支援事業
- 地域子育て支援拠点事業
- 市民サービスセンターにおける地域子育て支援
- 地域子育て支援ネットワーク事業
- ファミリー・サポート・センター事業
- 子育て支援情報の提供
- 子育て情報サイトの運用
- 子ども広場運営事業

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 在宅子育てサポート事業
- 地域子育て支援拠点事業
- 市民サービスセンターにおける地域子育て支援
- 地域子育て支援ネットワーク事業
- ファミリー・サポート・センター事業
- 子育て支援情報の提供
- 子育て情報サイトの運用
- 子ども広場運営事業

第2章 地域の子育ての支援

施策205 放課後児童対策の充実（プラン65頁）

施策目標 放課後の子どもたちの安全、安心な居場所づくりのため、児童館等の整備を進めるとともに、放課後子どもプラン（放課後子ども教室推進事業、放課後児童健全育成事業）を積極的に推進し、総合的な放課後児童対策に努めます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
放課後子ども教室未実施学区	10学区	5学区	0学区	A

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	92%	8%	0%

【委員からの主な意見（要約）】

- 児童館の整備は順調に進んでいるようであるが、子どもを小学校に入学させた親の一番の心配事が放課後の居場所であることから、未設置学区については、早急な対応を望む。
- 安全・安心な居場所として、児童館等の整備を引き続き進めてほしい。

■課題と今後の対応方針

引き続き、計画的に放課後児童プラン未実施学区の解消に向け、計画的にその拠点となる児童館等の整備を進めていく。

■22～23年度の取組・事業

- 放課後児童健全育成事業
- 放課後子ども教室推進事業
- 児童厚生施設整備事業

■24～26年度の取組・事業（予定）

- 放課後児童健全育成事業
- 放課後子ども教室推進事業
- 児童厚生施設整備事業